会議録（要点記録）

「堺市南区基本計画（案）」に関する意見交換会	
開催日時	令和 7 年 11 月 19 日（水）　15 時 00 分～16 時 15 分
開催場所	南区役所　201・202 会議室
出席者	藤本 幸子　議員（日本共産党堺市議会議員団） 的場 慎一　議員（大阪維新の会堺市議会議員団） 田渕 和夫　議員（公明党堺市議団） 吉川 敏文　議員（公明党堺市議団）
事務局（市職員）	南区役所 中山区長、阿加井副区長、松本副区長 企画総務課長、企画総務課 課長補佐、企画総務課 企画係長、 スマート区役所担当課長、自治推進課長、市民課長、保険年金課長、 生活援護課長、地域福祉課長、子育て支援課長、南保健センター所長 泉北ニューデザイン推進室 企画推進担当課長、事業推進担当課長
議題	（1）　堺市南区基本計画（案）について
配付資料	・次第　・配席図 ・資料 1　堺市南区基本計画（案）概要版 ・資料 2　堺市南区基本計画（案） ・参考　堺市南区基本計画～みなみスマートビジョン～

審議状況	開会（15 時 00 分） **1　開会** ＜中山区長挨拶＞ 　皆さま、本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。 　まず、平素より区役所の取組にご協力いただき、また様々なご意見を賜っておりますことに、改めて感謝申し上げます。 　本日は、次期堺市南区基本計画の素案をお手元にご用意しております。この素案について、皆さまからご意見を頂戴したいと考えております。 　現在の計画（みなみスマートビジョン）についても、計画策定の前段階の令和 2 年 12 月にご意見をいただきました。また、昨年 11 月には南区においてウェルビーイングに関するアンケート調査を行い、その結果を南区政策会議で報告し、構成員の皆さまと議論を重ねてまいりました。 　こうした議論を踏まえ、次期計画では「ウェルビーイング」をキーワードに据え、南区に暮らす皆さまが望ましい生活を実現できる、そういったライフスタイルが確立できるよう、区役所として支援していくことを基本方針として、計画案を作成したところです。 　この後、計画案の説明を行い、基本となる趣旨をご理解いただいたうえで、日頃から区役所や堺市行政に対して感じておられることも含め、忌憚のないご意見を賜りたいと思います。 　その後は、区民の皆さまからご意見を募集するスケジュールで進めてまいります。貴重なご意見をいただければ幸いです。本日はどうぞよろしくお願いいたします。 **2　議題（1）堺市南区基本計画（案）について** 企画総務課長 ＜堺市南区基本計画（案）の内容を説明＞ 　本計画は区民の皆さまが「南区で暮らしてみたい」「これからも南区で暮らし続けたい」と思えるような地域をめざす南区のビジョンです。より良い計画を作り上げていきたいと考えていますので、ご質問や率直な感想など、忌憚のないご意見をいただきますようお願いします。 説明は以上です。 阿加井副区長 　それでは、一人ずつ順番に、ご意見、ご質問があれば頂戴できればと思います。

	藤本議員 一点、ブランド戦略についてお伺いしたいのですが、アンケートの「堺市が魅力や愛着を感じる都市だと思うと答えた方の割合」について、他の区と比較して、令和 6 年の南区の割合はどの程度なのかという点を教えていただきたいと思います。また、「堺市に対して魅力を感じる」という回答は、南区に対してなのか、それとも堺市全体、他の地域も含めてなのか、そのあたりも教えていただきたいなと思いました。 さらに、この 3 つの柱の中では、「子育て・教育・健康長寿」が今後特に重要になっていくのではないかと感じています。様々なご相談を受ける中で、生活や周囲とのつながりがなく孤立していて、大変な状況にあるというお話を聞くこともあります。そうした中で、困り事を一人で抱え込まないよう、幅広い相談支援を通じて、安心して暮らせる環境をお一人お一人にしっかり届けていただきたいと考えています。南区役所の福祉担当の人員体制ですとか、関係機関、そういったところの体制強化というのもこれから必要ではないかなというふうに感じているところです。 これから新しく、例えば府営住宅の跡地の活用などにより、新しい方々がどんどん来られ、世代や世帯が増えていくことで、南区は今後大きく変わっていくのではないかと考えています。その一方で、その場所に隣接する既存の府営住宅や公営住宅に暮らす方々が、取り残されることがないだろうかという懸念を持っています。 ぜひ、そうした方々にも、この計画に記載されている取組がウェルビーイングにつながるようなまちをめざしていただきたいと考えています。これが、今回資料を拝見した中での私の感想です。 企画総務課長 先ほどのご質問にお答えいたします。まず、アンケートの「堺市が魅力や愛着を感じる都市だと思うと答えた方」の回答割合ですが、南区が 72.3%、堺区が 73.8%、中区が 70.3%、東区が 69.1%、西区が 70.3%、北区が 73.8%、美原区が 68%という状況です。また、この設問は「堺市は魅力や愛着を感じる都市だと思える」と答えた方の割合ということで堺市全体に関する魅力についての回答です。それに対して、南区の方がどのようにお答えになっているか、ということになります。 阿加井副区長 続いて、的場議員よろしくお願いいたします。 的場議員 先般、議会でも触れさせていただきましたが、泉北ニュータウンについて申し上げますと、30 代の子育て世代と 10 代のこどもの年代に絞った場合、令和元年では 130 人以上の転出

	超過となっていました。しかし、令和５年・令和６年では約 70 名程度の転入超過に変わっているという報告がございました。 　この令和元年から令和５年・令和６年の間に、子育て世代に絞れば転入超過となっているというデータがあります。全体ではまだ転出超過ですが、出ていく人が減っているという傾向が見られるということをお聞きし、質疑させていただきました。 　区民や私たちの思いとしては、非常によくできた計画だと感じています。南区をさらに住みやすくしていこうという内容であり、住民としても共感できる計画になっていると思います。 　一方で、目標とする KGI の達成ができていない項目が２つあり、この点をどうしていくかが非常に大きな課題だと考えています。子育て世帯については、残ってくれる人が増えてきたという状況ですが、泉北ニュータウンへの転入を検討している堺市外の方へのアンケート結果を見ると、驚くことに「子育て環境」や「老後の生活」に興味があると答えた方は 0%という結果でした。では、泉北ニュータウンに引っ越しを検討している方が何を重視しているかというと、非常に高かったのが「通勤の利便性」や「買い物・移動の利便性」でした。 　若い子育て世帯の方が引っ越しを考える際、子育て環境よりも利便性を重視しているというのは驚きました。日本国内であれば、ほかの地域に住むとしても子育てや老後の生活環境が急激に悪化することはないと考えている方が多いのではないかと思います。 　あと、もう一点ですが、アンケートで高かった項目として「イメージの良いまち」というものがありました。住環境が良いと言われている他の地域にも、泉北ニュータウンの公園や緑道など南区も負けていない環境があって、こうした点をアピールすることで、新たな若い世代に泉北ニュータウンに住んでいただき、こどもの声が響くまちにつなげていくことが重要だと考えています。 　若い方が増えなければ、福祉を支える力強さが地域から失われてしまいます。 　税収もそうですが、地域活動や人材確保も同様です。介護や老人ホームなど、様々なサービスは公的だけでなく民間も含め、若い方が離れてしまうと総合的なサービスの維持が難しくなります。そのため、外にもアピールをして、若い方を呼び込む取組が必要です。転出は抑えられつつありますので、今後は獲得に向けた意識を高めることが重要だと思います。 　その点において、この計画ではもう少しその視点を強調してもよかったのではないかという所感を持ちました。 阿加井副区長 　続いて田渕議員、よろしくお願いいたします。 田渕議員 　南区基本計画についてですが、以前から南区選出議員全員で、将来的には 30 歳代の若年世帯の流入につながるまちをつくろうという点で認識を共有してきました。ここは８名全員

	が一致しているところであります。 　政策会議の構成員のご意見も反映していただいたということを踏まえつつ、いくつか確認をしていきたいと思います。 　まず、本編２ページのウェルビーイングについてです。「要改善・様子見・強化維持」の項目のうち、特に地域のつながりが「要注意」となっています。 　この項目は非常に重要で、しっかりと取り組まなければならないと考えています。地域のつながりが強まれば防災力の向上につながり、逆に希薄になれば孤立感の増大につながる可能性があります。災害に強く安心して暮らせるという、この「安心感」というのは非常に重要であり、現在、全国的にも「将来住みたいまち」の要素の一つとして、安全・安心が挙げられています。 　次に、「みどりとともにかなえる豊かなくらし」、これは南区独自の取組だと思います。ところが最近、緑道が荒れてきていると感じています。大蓮公園は照明も整備されていますが、陶器山の上の方などは、ブランド化を進めるにはもう少し強化が必要ではないかと感じます。キャッチコピーに実態が追いついていないという印象です。 　また、「SEMBOKU New Design」についても、しっかりと見える化が必要だと思います。さらに、「困りごとを一人で抱えず」という部分、特に「困りごとのワンストップ化」については、後ほど議論になりますが、最近、区役所の対応に関しても様々な要望が出てきています。言葉遣いや態度といった部分で、より丁寧さが求められるのではないかと思います。 　次に、４ページの「主な取組」に関して、です。 　現在の小学校単位で自主防災組織を運営している点について、疑問を感じています。浜松市では単位自治会ごとに組織されており、自主防災組織は 350～400 程度あります。本会議でも申し上げましたが、今後も校区単位での運営を続けるべきなのかという点です。校区が悪いということではありませんが、中には単位自治会が抜けてしまっているところもあります。そのような地域で、防災において「一人も取り残さない」ということが可能なのか、という点は課題です。 　また、中学校単位での防災訓練は良いと思いますが、高校も忘れずにおく必要があります。高校にも堺市の災害備蓄倉庫が設置されています。しかし、そこで防災訓練が一度も実施されていないという実態があります。大学についても同様で、忘れないでいただきたいと思います。 　これについては、区役所が積極的に発信しないと、地域の方々が「高校に入っていいのか」「大学に入っていいのか」と迷ってしまいます。防災上必要な場合には差し支えないのですから、区役所の皆さんがその点をしっかりと発信する必要があります。 　右側のイメージ図についてですが、南区の現状とやや乖離があるように思います。二世帯・三世帯で暮らす家庭もありますが、団地などでは同様の形態が難しい状況もあります。このイメージ図は、親子揃って暮らす姿を描いているように思いますが、実態に合っていないのではないかと感じています。

	次に、5 ページです。「様々な困りごとにワンストップで対応」と示されていますが、これはどの区でも掲げられています。しかし、最近、南区におけるワンストップ化の中身や対応状況について、様々な声が上がっていないでしょうか。その点が気になります。ワンストップ対応は非常に重要である一方、障害者や高齢者など、声を上げにくい方々の課題は本当に切実であり、そうした方が増えてきていますので、どうかその視点を忘れないで対応をお願いしたいと思います。 続いて、8 ページの KPI についてです。令和 7 年の「1」というのはどの校区のことでしょうか。 5 年間で「19」、「7」まで引き上げるといことですが、その間に南海トラフ巨大地震が来ないことはなく、今すぐ起こる得る可能性があります。5 年後にようやく「19」「7」という目標を達成するという計画ですが、これで大丈夫なのかと思います。地区防災計画は非常に重要ですし、中学校単位で避難することも大事です。 しかし、外部に目標値を示す際、少し低いのではないかと感じる方もいるのではないでしょうか。取組のスピード感をもう少し高める必要があるのではないでしょうか。 最後に、区民へのアンケートについてです。「買い物がしやすい」「利便性がある」という意見はよく理解できますが、駅前の状況を見る必要があります。買い物がしやすい地域は一部に限られ、買い物が難しい場所はまだ多くあります。だからこそ、私たち議員 8 名は地域の声を聞き、一つずつ対応しているのだと思っています。 こうした方々が転居してしまわないようにすることが重要です。 最後に、「待たせない」「書かせない」という区役所に行かなくても済むような ICT の導入を進め、その取組を可視化していただくことが、「南区にこれからも住み続けたい」と思っていただけるのではないかと考えています。 自治推進課長 中学校避難所を想定した避難計画の策定数の「 1 」は、原山台校区です。 ここは元々、「1 小学校・1 中学校」という構成であり、現在、避難計画の策定を進めているところです。これまでにも防災訓練を実施してきました。 その他にも、年 2 回開催している「自主防災組織実務者連絡会」では、協議であったり、中学校を活用した合同訓練の計画も進めています。これらについても、順次取り組んでまいります。 それから、避難行動要支援者の安否確認訓練についてです。 現在、避難行動要支援者のリストは、各区役所や自主防災組織を通じて自治連合会、民生委員に配られていますが、このリストを活用した安否確認訓練は、ほとんど実施されていない状況です。 ご指摘のとおり、早急に進めるべき課題であり、今後、各地区の自主防災組織に働きかけるとともに、実務者連絡会で協議を重ねながら、取組を進めていく予定です。

	さらに、地区防災計画ですが、南区では現在 19 校区のうち 7 校区で策定されています。これは南区だけでなく、堺市全体としてまだ十分に進んでいない状況です。 南区では、実務者連絡会を通じて議論を重ね、少しずつ取組を進めているところです。 災害はいつ発生するか分からず、早急な対応が求められています。しかし、校区レベルでの浸透は遅れているのが現状で、より積極的に進めていく必要があると考えています。 阿加井副区長 続きまして、吉川議員、よろしくお願いいたします。 吉川議員 計画を考える際に重要だと思うのは、区役所が住民に最も近い行政組織であるという点です。したがって、この計画によって、誰が何を行い、どのような成果につながるのかを具体的に示す必要があると思います。市全体の基本計画では抽象的な表現が多くなりがちですが、南区の計画は、身近な役所である区役所が「何をするのか」をはっきり示すことが重要です。 また、この計画を実現するには、区役所や本庁の職員だけでは対応しきれない部分があり、区民や民間事業者の協力が不可欠です。 したがって、どこで・誰が・何を担うのかが、計画策定後に明確になっているかどうかが重要になります。計画期間は 5 年間と限られており、すぐに取組を開始しなければならないことからも、この点は重要だと考えています。 私はいつも申し上げているのですが、組織で仕事をする上では、目的を明確にし、その目的を共有したうえで、達成に向けた具体的な目標を設定し、「いつまでに、どこまでやるのか」を明確にさせることが重要だと思っています。 計画には KPI などが記載されていますが、ありがちなのがアウトプットを目標にしてしまうことです。本来の目的は「区民のウェルビーイングの向上」であり、区民がそれを実感できるアウトカムを目標として設定する必要があります。取組を「何回実施したか」というアウトプットではなく、その取組の結果、誰がどのように変わるのかという点を目標に据えるべきです。 特に難しいのがブランド戦略です。丁寧に取り組まれていることは否定しませんが、ロゴマークの認知度を測って、その先に何をめざすのかが曖昧に見える点が気になります。そもそも、なぜ南区にブランドが必要なのか。ブランドには様々な要素があり、それを通じて地域外の方が「南区に住んでみたい」「南区で働いてみたい」と思えるものでなければ意味がありません。また、区民自身がブランドを理解していなければ、外部への浸透も期待できません。こうした点を踏まえた検討が重要だと考えています。 計画策定後に「明日から自分は何をするのか」が明確でなければ、計画を作成した意義が

	薄れてしまいます。その中で注目すべきは、本計画のスローガン「みどりとともに叶える豊かなくらし」です。南区の強みである豊かな緑を、人々のライフスタイルの中でどのように活かすのか、その仕掛けを計画に盛り込んでいただければと考えています。大きな変更は難しいと思いますので、現行の枠組みの中で検討いただければと思います。 　例えば子育ての視点では、こどもをのびのびと遊ばせられる環境は大きな魅力であり、それは堺区では実現が難しいものです。こうした環境に魅力を感じて移り住む方も多いのではないかと思います。そこから、公園にどのような機能を求めるのかという視点も生まれます。公園のプールや泉ヶ丘の「ビッグバン」など、地域の魅力を高める仕掛けは重要です。 　また、教育も計画に掲げられていますが、環境自体は良いものの、予算不足でメンテナンスが行き届かず環境が悪化するのは避けなければなりません。集中投資による整備だけでもイメージは大きく向上すると思います。 　さらに、子育て世代が重視する教育環境について、その整備状況を何によって評価するのかが重要です。南区には図書館や文化施設がありますが、座って勉強できるスペースがほとんどない状況で、「教育に力を入れている区」と言えるのか疑問があります。 　高齢者の生涯学習の視点では、文化会館の稼働率が高く、意識の高い方が多いことがうかがえます。こうした場との連携も重要です。また、高齢者の健康長寿をめざすのであれば、公園との接点を活かし、健康づくりにつながる仕掛けを考えるなど、南区の強みを踏まえた戦略が必要です。 阿加井副区長 　ご意見いただくということでよろしいでしょうか。 　それでは、一巡いたしましたが、ほかにご意見やご質問がございましたら、ぜひお聞かせいただきたいと思います。いかがでしょうか。 吉川議員 　少し質問させていただきます。ブランド戦略についてですが、様々な取組をされていると思いますが、先ほど聞けなかったので改めてお伺いします。このブランド戦略は、何のために策定されているのでしょうか。 中山区長 　ブランド戦略という概念が、政策会議等の場で取り上げられるようになった点は、これまでの議論を踏まえても重要なポイントだと考えています。 　南区には多くの優れた魅力があり、区民が「ここが良い」と強く思っておられるという点が非常に大きな特徴です。

	一方で、これらの魅力が市外や南区外の方に十分に伝わっているかという点については、まだ課題が残っている状況です。そこで、南区の良さを発信するための手法として、ブランド戦略が必要であると考えています。 今回、我々がブランド戦略を重点施策として位置づけた理由は、「南区」という言葉を聞いただけでイメージが浮かぶようにすることです。「南区とはこういう地域である」というイメージを持っていただくことがブランド形成の基本であり、南区の価値を高めるという意味で、取組を進めていく必要があります。 それは魅力の発信や、南区を知っていただくこと、そして区民が「南区に住んで良かった」と感じていただける価値観を育むことが重要であると考えています。その実現に向けては、一人ひとりが自分に合ったライフスタイルに合った暮らし方を選択できる地域とすることが不可欠です。こうした環境が整っているまちであれば、自分のスタイルで生活できるということが区民にとってもブランドとして受け止められるのではないかと考えています。 今回の将来像「みどりとともにかなえる豊かなくらし」も、そうした考え方を踏まえています。それぞれのライフステージによって暮らし方は変わりますので、そういった意味でブランド戦略を重点的に進めていくことが必要です。そのため、一つの柱として位置づけたところです。 吉川議員 ブランド戦略を作ること自体が目的ではなく、南区が持っている魅力を一つのブランドとして成長させることが重要だと考えています。 南区の強みは失ってはならないものですが、現在、予算をかけられないなどの理由で、徐々に失われつつある部分もあります。そうであれば、どこを削り、どこに重点的に投資するのかという意思を南区として持つ必要があると思います。 現在の成果指標には疑問を感じます。例えば「泉北スタイル」など、すでに一定の力を持つ発信もありますが、もっと高い効果が期待できるはずです。閉じた情報発信ではなく、SNS など広く世界に開かれた媒体を活用して強みを発信する必要があると考えています。 ビッグバンについても、南区の「子育てコア」という位置付けがされていますが、現状では施設が単体で存在しているだけという印象があり、本当にコアとして機能しているのか疑問があります。図書館についても同様で、南区として工夫できる点は多いのではないでしょうか。 対外的に区民の方とどのように教育関係を構築していくのか、この計画を達成するために民間の方にどのようにアプローチしていくのかという点についても課題があると感じています。そのあたりについては、どのようにお考えでしょうか。 中山区長 概要版にも「計画の位置づけ」という項目がありますが、関係機関として南区には泉北ニュ

	ーデザイン推進室の泉北執務室があります。また、公園に関しても、泉北を中心とした公園事務所や土木事務所などの機能があり、行政機能としても南区は区役所以外にも恵まれています。民間事業者との連携についても泉北ニューデザイン推進室を通じて、直接・間接的に進めている状況です。 　こちらの地域も、中心となるのはやはり自治連合協議会であり、そのほかにも自治会などの地域ネットワークがあります。また、新しく若い世代の方がNPOを立ち上げておられたり、様々なグループ活動をされているところもございます。ただ、そういった方々に対して、どのようにアプローチするかという点については、正直なところ現時点では確立された方法がありません。そのため、やはり人と人との連携を進めていくことが重要だと考えています。 吉川議員 　区役所は区民に最も近い組織ですので、先ほどのウェルビーイングに関するアンケート調査で「要改善」となっている項目が明確になっています。 　であれば、そこをもっと具体的にどうなのかを区役所から区民に問いかけることができるはずです。「もっとどうしてほしいのか」という一歩踏み込んだ意見を聞けるのが区役所の強みだと思います。本庁ではこのレベルで終わるかもしれませんが、区役所ならワークショップなどさらに深い意見を引き出せると思います。例えば、アンケートで「遊び・娯楽・外食」が要改善となっているのであれば、「どうすれば良くなると思いますか」という質問を、一人や二人ではなく、たくさんの方に聞いていただきたいと思います。よろしくお願いします。 田渕議員 　今回のこの計画について、私は一議員として応援したいと考えています。その立場から、南区のブランドの一つである「みどり」と、合わせて「安全」という要素をぜひ計画に盛り込んでいただきたいというのが、私が最も申し上げたいことです。 　例えば、小学校の授業参観の際に防災訓練を一緒に実施すれば、保護者も地域の方も一緒に訓練に参加できます。現在、小学校でこうした取組をしているところは一校しかないと聞いています。また、中学校の体育行事の際にも、バケツリレーなどを行えば、地域の方も参加できるのではないでしょうか。 　こうした仕掛けをできるのは行政です。自主防災組織とおっしゃいますが、自主防災組織の皆さんを導いていくのも行政の役割です。ですから、行政の皆さんが柔軟に、南区のすべての方々の安全のために何ができるのかを検討することが重要だと思います。 　一点だけ確認させてください。単位自治会は掌握されていますか。 自治推進課長

	はい、南区の自治連合協議会に加入している単位自治会については掌握しております。また、先ほどご指摘いただいた避難行動要支援者についても、単位自治会ごとに避難行動や安否確認を行うことを基本としていますので、田渕議員がおっしゃったことは、一番大事な防災の基本であると考えています。 田渕議員 「誰一人取り残さない」ということが大切です。すべての市民、13 万数千人の方々お一人お一人が対象です。防災訓練についても、連合に加入しているかどうかに関係なく、住民に必要な防災訓練はなぜ実施されないのか、なぜ取り組まれないのかという点を強く感じています。その方々も区民であることに変わりはありません。 自治推進課長 なかなかそちらへのアプローチっていうのは非常に難しいところで、我々もジレンマを感じているところです。 先ほどお話しいただいた小・中学校についてですが、実際に防災授業を行い、こどもたちに啓発を進めています。そこで、家庭で保護者の方と防災について検討していただき、横のつながりや共助、自助について話し合う機会を設けることが必要だと考えています。 実際、南区内の小学校・中学校では防災授業をかなり実施しており、全区を合わせても南区が最も多いと聞いています。中学校についても、現在 9 校区中 8 校で防災授業を行っています。 中学生は、災害発生時の避難生活において非常に力になってくれる存在であり、自分たちがどのような行動を取るべきかを考える機会として、授業を実施しています。 議員からもご指摘いただいたように、こどもたちや自治連に加入していない方へのアプローチを進める中で、小学校・中学校は非常に重要であると考えています。 田渕議員 自治会に加入していなくても、防災訓練には「参加してください」と呼びかけること、家庭で防災の準備をしているか確認すること、こうした取組が必要です。 特に、一人で避難できない方の命をどう守るかは行政にしかできません。だからこそ、ワンストップ化をもっと強化し、ブランドには「安全」という要素を加えていただきたい。他の区よりも南区が防災に力を入れているということを示せば、南区のブランドは「みどり」だけでなく、「安全な地域」という価値も持てるはずです。 ぜひ、防災をしっかりと進めていただきたいと思います。

	中山区長 「南区といえば安全」というイメージを持っていただくことも、ブランド戦略の一つであると考えています。そのため、我々としても「安全・安心」という視点を重視し、地域の一人ひとりが備えを進めること、そして地域で関係性を築いていただくことが重要だと考えています。 単身世帯が今後５割を超えるだろうという予測もあり、日常的な付き合いがない方をいかに減らしていくかという点も課題です。地域でコミュニティを活性化する意義はここにあり、こうした取組がブランド戦略にもつながると考えています。「南区は安全で暮らしやすい」と言っていただけるよう、一人ひとりの意識をどう変えていくかが重要です。 防災面については、これまで区役所は教育機関や高校・大学との関係性を十分に持てていませんでした。しかし、今回のアンケートや政策会議で高校生の意見を伺う機会があり、区内に通学している高校生からも様々な意見をいただきました。高校生の意識の中にも「何かあったら役に立ちたい」という思いがあることが分かりました。 ただ、訓練や取組を積み重ねても、実際にどう力を発揮するかという点は難しく、課題が残っています。昨年から大学生とのチャンネルも少しずつできてきており、こうした若い世代を地域とどうつなげるかが次のステップだと考えています。ご意見を伺いながら、少しずつではありますが、こうした取組を進めていきたいと考えています。 藤本議員 先ほどお聞きした部分でもありますが、ブランド戦略に関する成果指標についてですが、設問が堺市全体を対象としたものだと、南区に対する魅力や愛着を測ることが難しいのではないかと感じます。堺市市民意識調査の中で実施するのであれば、南区の方に対して「南区への魅力・愛着」や、他の地域の方から見た「南区への印象」を把握できるような設問を絞り込めないかと考えています。 そのあたり、成果指標をどのように見える化するか、現状では設問がないため難しいとは思いますが、今後、測定するものとしてそういった項目を設けることをご検討いただきたいと思います。 また、南区の魅力やブランドを考える際には、「賑わい」や「人が集まる」というよりも、緑が多いこと、暮らしやすいこと、子育てしやすいこと、そして近隣と心地よいコミュニティの中で暮らせることが、南区らしさを表す要素だと考えています。 このような心地よさが、南区の魅力となり、人を呼び込む循環になるのではないかと思いました。 その方向で計画が進められているのかと感じていますが、唯一、緑が多いという点は、南区外の方にとっても自然に触れ合う場として訪れる動機になると思います。緑や緑道、緑地といった要素を本当に魅力あるものにしていく方向性は重要だと考えています。

	阿加井副区長 それでは、本日の意見交換は終了させていただきます。本日、議員の皆様から貴重なご意見をいただき、大変有意義な意見交換ができましたことを、改めて感謝申し上げます。 本日いただいたご意見に加え、12 月に予定している意見募集で市民の皆さまからいただくご意見、さらに 2 月に開催予定の南区政策会議での議論を踏まえ、本計画をより良いものにしたいと考えております。本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。 閉会（16 時 15 分）